

(仮称)文化のまちづくりビジョン(案)について

○趣旨

当市で受け継がれてきた文化財や伝統芸能、活発に繰り広げられている市民による多種多様な文化活動、近年、市が取り組んできたアートプロジェクトといった文化芸術活動には、生活に元気や潤いをもたらし、豊かな情緒性や創造性を育むといった効力があり、この力を活用して、市民が生き生きと暮らすことのできるまちづくりを実現するため、その基本的な視座を示すものである。

○経過

これまで、庁内文化関係部署担当者に(株)アート&コミュニティを加えたメンバーでワーキング会議を行い、文化のまちづくりビジョンの案を検討し、適宜、地域文化コーディネーター熊倉教授から助言を受けたほか、原案について多文化都市八戸推進懇談会からも意見をいただいている。

- H25.2.19 第1回文化施策ビジョンワーキング実施(事業の洗い出し)
- H25.7.4 第2回文化施策ビジョンワーキング実施(課題の抽出)
- H25.7.26 第3回文化施策ビジョンワーキング実施(アートの果たす役割)
- H25.9.24 第4回文化施策ビジョンワーキング実施(X,Y,Zのワーキング)
- H25.10.7 第5回文化施策ビジョンワーキング実施(3本柱の検討、これまでのまとめ)
- H26.4.15 第1回文化のまちづくりビジョン策定ワーキング実施(骨子の検討)
- H26.11.13 第2回文化のまちづくりビジョン策定ワーキング実施(骨子の検討)
- H26.11.28 第3回文化のまちづくりビジョン策定ワーキング実施(骨子の検討)
- H26.12.11 第2回懇談会(多文化推進施策について、(仮)文化のまちづくりビジョンについて)
- H27.2.4 文化のまちづくりビジョン策定ワーキング分科会(基本方針の整理)
- H27.2.17 文化のまちづくりビジョン策定ワーキング分科会(基本方針の整理)

○修正点

多文化都市八戸推進懇談会、地域文化コーディネーター、ワーキング会議メンバーからいただいた意見を基に、文化のまちづくりビジョン案を修正した。

修正箇所	意見	新	旧
全体構成	他の箇所で言及していることの繰り返しとなっている。	・「4つの視点」と「まとめ」を「取組みの推進にむけて」に再編	・4つの視点を記載 ・「まとめ」で総括
趣旨	ここにしかないビジョンにした	全体的に、当市固有の文化や取組み、市の状況について、具体的に記載	
	「多文化」の思想を入れることで八戸らしさが出る。	多文化都市八戸の推進の取組みを追加	

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

修正箇所	意見	新	旧
基本方針1	当市の特徴である「多文化都市の推進」を記載してはどうか。	項目に多文化都市八戸の推進を追加	
	誰もが文化芸術に触れることのできる環境に加え、感性を高める点についても言及した方がよい。	・「基本方針1 生活と文化芸術が共生する社会づくり」 ・「3 市民の感性を高める文化芸術活動の支援」を追加	・「基本方針1 文化芸術を楽しむことができる環境づくり」
基本方針2	「地域資源の活用」以上の視点がほしい。	「基本方針2 地域資源がひらく八戸の未来づくり」	「地域資源の活用」
	ロケーションや方言も地域の資源ではないか。	歴史・伝統・自然・産業・景観・文化といった多くの資源を記載	伝統的な文化芸術、歴史、生活様式といった地域の資源
	伝統文化を継承する方法は、人材育成の他にもある。	人材育成のみならず、普及活動や情報発信などを通じ、地域の資源を継承	継承者の育成
基本方針3	推進体制の強化と横断的な取り組みは全体に関わることであり、最後に言及した方がよい。	結びとなる「4 取り組みの推進にむけて」に集約	「3 推進体制の強化と横断的な取り組み」
	八戸の魅力の発信という要素を入れるべきである。	「3 八戸の魅力の発信」を追加	
	人材の交流を通じたまちの発展も取り入れた方がよい。	・「2 創造的人材の交流」に変更 ・人材育成、活用に加え、人材の集積、交流を促進	「2 人材の育成と活用」

(仮称) 八戸市 文化のまちづくりビジョン (案)

～文化芸術の力を活用した魅力あふれるまちづくりの基本指針～

平成27年 月

八戸市

- 1 ビジョン策定の趣旨
- 2 八戸市の文化芸術を取り巻く現状
- 3 基本方針

基本方針 1 生活と文化芸術が共生する社会づくり

- 1 多文化都市八戸の推進
- 2 あらゆる人が文化芸術を享受できる仕組みづくり
- 3 文化芸術活動の支援

基本方針 2 地域資源がひらく八戸の未来づくり

- 1 地域資源の再発見
- 2 地域資源の継承
- 3 地域資源の活用

基本方針 3 文化芸術の創造性を活かしたまちづくり

- 1 アートのまちづくりへの活用
- 2 創造的人材の交流
- 3 八戸の魅力の発信

- 4 取組みの推進にむけて

1 ビジョン策定の趣旨

文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものです。

更に、文化芸術は、それ自体が固有の意義と価値を有するとともに、それぞれの地域やそれぞれの時代における住民共通のよりどころとして重要な意味を持ち、国際化が進展する中であって、自己認識の基点となり、文化的な伝統を尊重する心を育てるものと期待されています。

国においては、文化芸術の果たす役割が今後においても変わることなく、活力ある社会の形成にとって極めて重要な意義を持ち続けるとの認識の下、文化芸術の振興に関する施策を総合的に推進するため、平成 13 年に「文化芸術振興基本法」を定めています。

今後、人口減少が進んでいく中で、地域が発展していくためには、市民の知恵や地域に対する誇り、一人ひとりの創造性が様々な分野において十分に発揮され、市民力を結集して魅力あるまちづくりを行っていくことが肝要です。

八戸市は、東日本大震災からの創造的復興に取り組んでおり、また、定住自立圏を形成している周辺の市町村の中核都市としての役割を担っており、当地域からの人口流出の抑制や新たな移住の呼び込み、あるいはUターン人口の増加も重要な課題となっています。そのためには、圏域全体の経済活性化や生活基盤の強化を図るとともに、住みたくなる、また、住んでいて良かったと思える、まちの魅力づくりに取り組んでいく必要があります。

当市には、国宝「合掌土偶」をはじめ、長い歴史の中で大切に保存されてきた多くの文化財や、重要無形民俗文化財「八戸のえんぶり」や「八戸三社大祭の山車行事」のように、世代から世代へ脈々と受け継がれてきた伝統芸能があり、地域固有の文化を通して、このまちの個性を形成するとともに人材を育み、そして、八戸の魅力と市民の活力を産み出してきています。

また、当市では、市民が伝統的なものから新しいものまで、多種多様な分野において自主的で特色ある文化活動を活発に繰り広げていることから、このような多様な文化活動を「多文化」と定義し、「多文化都市八戸」を標榜して、当市が持つ多文化の力を結集させ、文化活動の更なる発展と多文化推進による地域活力の創出を図っています。

さらに、近年、当市が推進している「アートのみちづくり」は、文化芸術の持つ創造性に着目して、多様な視点から地域の個性を発見し、光を当てることにより、まちに関心を持つ市民を増やし、市民・事業者・行政がともに地域の課題に取り組むものです。

これからも文化芸術の持つ特性に着目し、魅力的なまちづくりのために文化芸術が重要であることを認識し、住む人がまちに誇りを持ち、また、選ばれるまちを目指すため、その基本的な指針となる「文化のみちづくりビジョン」を策定します。

2 八戸市の文化芸術をとりまく現状

八戸市は、古の優れた工芸技術を示す是川遺跡出土品や、三社大祭・えんぶり等の有形・無形の文化財、そして、種差海岸・蕪島等の自然に恵まれた、古い歴史と雄大な自然が融和したまちです。また、太平洋に面するその立地から、近代においては、漁港・商港として発展し、今日に至るまで全国屈指の水産都市、北東北随一の工業都市へと成長を遂げてきました。

このような背景から、伝統に根差しながら域外からのものを取り入れ、更なる発展を遂げようとする風土が培われ、多様な価値観を持った人々がお互いに認め合い、刺激し合い、多種多様な文化芸術活動が行われてきています。

当市では、このように市民主体の多種多様で特色ある文化活動を地域活力の創出につなげるため、「多文化都市八戸」を標榜し、多文化都市の推進を図ってきました。また、近年では、各文化関係施設における館内での鑑賞型事業の実施に加え、農村や横丁等を舞台にした、館外で繰り広げられるアートプロジェクトの実施や工場をテーマにした市民参加型文化活動等、地域の特性を生かし、まちと深く関わりながら実施する文化芸術活動にも取り組んでいます。さらに、平成 23 年 2 月に中心街に誕生した八戸ポータルミュージアムでは、市民とつくる事業、産業・観光振興のためのクリエイティブな事業、そして、そこに集まる人々のコミュニケーションがまちを動かす力と考え、新しい価値の創出を促進する事業を展開しています。

平成 25 年度には、このように文化芸術の持つ創造性を地域振興等に横断的に活用し、地域の特色を活かした文化芸術活動や社会課題の解決に行政と住民との協働等により取り組んでいることが総合的に評価され、文化芸術創造都市部門における文化庁長官表彰を受彰しました。

一方で、第 6 次八戸市総合計画策定に向けた市民アンケート調査によると、「芸術・文化に親しむ鑑賞機会や活動機会が充実している」との問いに対して、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」と回答した方の割合は 51.4%となりましたが、「八戸市の魅力を感じる」ところ」という項目では、「歴史や伝統文化」を選択した方の割合が 17.0%、「芸術・アート」を選択した方の割合が 1.9%と相対的に低い数値となりました。

このようなことから、今後は、文化庁長官表彰受彰を一つの契機として、引き続き文化芸術の持つ創造性を地域活力の創出に活かす様々な取組みを推進していくとともに、市民がより一層、八戸市の文化芸術活動に魅力を感じ、地域への誇りを深めることができるよう、市民への普及・浸透を図り、より多くの主体と協働した活動の推進に努めることが不可欠です。

3 基本方針

文化芸術をまちづくりの重要なファクターと位置づけ、今後の施策の方向性を示すため、3つの基本方針を掲げます。

基本方針 1 生活と文化芸術が共生する社会づくり

文化芸術は、豊かな人間性と感性を育み、創造的な活動の源泉となることから、多種多様な文化活動を推進し、すべての市民が文化芸術活動を楽しむことができる社会基盤を整えます。

1 多文化都市八戸の推進

伝統文化から新しい文化まで、多種多様な分野で活発に繰り広げられている市民の特色ある文化芸術活動を「多文化」と定義し、その「多文化」を推進することで地域活力の創出を図っていきます。

2 あらゆる人が文化芸術を享受できる仕組みづくり

文化芸術は、社会参加の機会をひらく基盤となり得ることから、個人を取り巻く社会的状況に関わらず、誰もが文化芸術を鑑賞し、そこに参加し、創造することができる仕組みを構築します。また、積極的に鑑賞機会や体験型のプログラムを提供するなど、芸術や文化が市民の暮らしとともにある環境を整え、成熟した豊かな社会を形成します。

3 市民の感性を高める文化芸術活動の支援

市民や文化芸術団体による自主的で創造的な文化芸術活動が活発に行われるよう環境の整備や支援の充実を図ります。

また、市民の感性を伸ばし、創造性を育むため質の高い多様な文化芸術に触れる機会の創出を図ります。

基本方針 2 地域資源がひらく八戸の未来づくり

日常に潜在する伝統文化を見つめ直し、今ある八戸の姿を多角的に捉えることで新たに見えてくる地域の資源を人と未来に伝え、八戸の文化が更に発展していくことを目指します。

1 地域資源の再発見

八戸の風土と歴史が育んできた伝統的な文化や芸術と、この上に成り立つ現代の産業や景観は、日常生活の中に無意識に存在しつつ、他にはない価値や魅力を秘めています。

それは、伝統の価値や文化財の意義を見直し、現代の姿を多角的かつ創造的な視点で捉えることで再発見され、八戸独自の新たな地域資源となる可能性に富んでいます。

こうした八戸の地域資源に光を当てるため、地域の宝を発掘し、体験し、鑑賞する機会の充実を図ります。

2 地域資源の継承

水産都市・工業都市として発展する現代の八戸に、今も息づくお祭りや種差海岸などの歴史・伝統・自然は、市民の心に刻まれた八戸の独自性の源泉であり、現代社会の情報化とグローバルが進むなかで、その継承がますます重要になっています。

次代を担う子どもたちに伝統文化を正しく伝え、幅広い普及活動を通じて市民の関心と理解を深めることにより、伝統と未来を結ぶ人を育て、支える輪を広げます。

地域の宝を人から人へ、現在から未来へ、また、他分野の取組みへつないでいくため、これらを伝承し、支える事業の充実を図ります。

3 地域資源の活用

伝統と革新が対話し、常に現代と調和することで継承されてきた八戸独自の伝統的な文化や芸術は、現在展開されている多様な文化の土台であると同時に、文化がさらに発展していくための基盤となるものです。

そして、地域資源は、積極的に公開し、様々な分野と連携して活用していくことによって磨かれ、八戸市という枠を超えた情報発信や交流が促進されることにより、新たな価値を創造し、心豊かな暮らしと、まちの活力を生み出す源となるものです。

海から拓けたまち八戸の、未来の文化をひらくため、地域の宝を見せる、伝える、交わる、使う機会の充実を図ります。

基本方針 3 文化芸術の創造性を活かしたまちづくり

多様化する地域の課題を新たな視点で捉え、創造的なアプローチにより取り組むことで、まちの活力を生み出します。また、八戸を舞台にした創造的な活動を内外に発信し、他地域との交流を促進します。

1 アートのまちづくりの推進

文化芸術の持つ創造的なアプローチは、多様な視点から地域資源を捉えることで地域の誇りや新たな魅力を生み出す源泉となるだけでなく、文化芸術の分野を越えた幅広い分野における課題に対する処方箋ともなりうるものです。

また、アートプロジェクトには、芸術家をはじめとした芸術・美術関係者、市民、企業、自治体など多様な主体が関わることにより、そのプロセスを通じて、文化芸術の普及だけでなく、社会に働きかける作用もあることから、アートの力を活用したまちづくりを推進します。

2 創造的人材の交流

才能あるアーティストやデザイナーなど創造的産業を担う人材やアートマネジメントに携わる人材、文化芸術を支える専門的技術を有する人材を発掘し、育て、受け入れることで、創造的人材の集積や交流を促進します。

また、新しいものや多様性を受け入れ、育てる、寛容性の高い土壌をつくり、様々な人に活動の場を提供することで、文化芸術分野の魅力に溢れ、多様な人材が集まる拠点となるよう、創造的産業の集積を図ります。

3 八戸の魅力の発信

地域資源を活用したユニークな文化芸術活動を展開し、ここにしかない八戸の魅力と存在感を内外に発信します。

また、創造的視点で従来と違った角度から地域資源に光を当てることにより、文化芸術の枠を越えて、今ある八戸の個性が輝きを増し、八戸市内外からその魅力が評価され、まちがより賑わうよう、文化芸術の力を活用したまちの活性化に取り組みます。

4 取組みの推進にむけて

文化芸術の持つ力をまちづくりに活かしていくためには、担い手となる市民一人ひとりの持つ創造性が十分に発揮され、歴史的な財産、伝統的な文化芸術、地域固有の自然・産業などがまちの重要な資源として活用されるとともに、文化芸術に内在する創造性によって、新たな価値を付加し、現代を生きる全ての市民に親しまれ、独自性を認識し、伝えていくことが大切です。

そのため、本ビジョンでは、市民の人間性を育み、創造的な活動の源泉となる文化芸術を楽しむことができる環境を整備すること、創造的な視点から地域資源を再認識して活用し、未来につなげていくこと、文化芸術の持つ創造性により、まちに活力を生み出していくことを基本方針として掲げています。

また、八戸の素材や資源に光を当て、魅力あるまちづくりを推進していくためには、地域住民、文化関係施設、民間企業・団体、自治体など様々な主体がその役割を果たし、連携していくこともますます重要となります。

本ビジョンが示す文化芸術の力を活用した魅力溢れるまちづくりを実現していくため、団体の枠を超えた横断的な協働や、様々な主体の有機的な連携により、この地域の財産を有効に活用した文化芸術活動がさらに活発に繰り広げられるよう、市では、先に掲げた基本方針に則り、体系的に施策を推進していきます。

そして、本ビジョンで示した視座に立ち、文化芸術活動のさらなる振興を図るとともに、文化芸術分野に留まらず、様々な困難にも前向きに取り組むことのできる、創造性豊かで力に満ちた八戸市の実現を目指します。